

杉戸町立広島中学校 令和6年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況 (成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	基礎基本の定着	①家庭学習の年間を通した取り組み ②ICTを活用した家庭学習の推進	①学力向上シートの活用と来年度以降の家庭学習実施方法の検討 ②長期休業期間及び課業日における課題の配信	b	①学力向上シートを家庭学習で活用する生徒が増えた。また、数学や社会でも独自の課題プリントを作成し、生徒が復習に活用することができた。ワークや塾の勉強も家庭学習として認めるようにしたことで実施率は上がっている。 ②長期休業中の課題はタブレットで配信。 ③全ての教員の道徳の授業では生徒がタブレットを活用している。タブレット活用アンケートでは「ほぼ毎日使っている」と回答した生徒が97.5%と町内トップとなっている。 ④1学期にモデルとなる授業を全員で参観し、協議を重ねた。年間を通して、または特定の単元において全ての教員が個別最適、自由進度、協働的な学び等、新たな学びの形を取り入れることができた。	①家庭学習は提出するために行っている生徒も多く見られ、質の面でさらに検討していく必要がある。 ②課題日に継続した課題の配信はおこなえていない。ミライシードで各自が学習するよう呼びかけている。	A	○家庭学習の実施率向上は成果として評価できる。 ○統合初年度の実践は大切である。望ましい授業の姿の共通理解をしっかりと図り、教職員一人ひとりが確実に実践することを期待している。 ○「書く」という作業も大切だと感じ、職員室前の学力向上シートなどアナログな勉強も残してほしい。 ○全教職員が授業改革を進めることができたのは素晴らしい。 ●授業改善の取組も他教科の授業参観により情報交換をすることで効果が上がると思われる。 ●今の時代はタブレットなどが当たり前と思われるが、ぜひ辞書も活用しても良いのではないかな。
	令和の日本型教育の構築	③タブレットを活用した授業づくり ④個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進める。	③各教科にてタブレットを活用する単元（授業）をR5年度よりも増やしていく。道徳については全教員がタブレットを活用する。 ④各教科で2学期に新しい学びの形を実践し、校内公開授業をおこなう。	a	④昨年度から継続して、全教員が授業改革を進めることができた。来年度の課題としては、他教科の教員との授業参観による情報交換、統合して新たな教職員集団での確実な実践である。			
豊かな心	学校生活の充実	①体験活動の実施 ②生徒の居場所づくり	①福祉体験、職場体験と町と連携し、今年度は学校ファームを復活させ、収穫体験を行う。 ②多目的ブースを活用するとともに、ケース会議を実施することで新規の不登校生徒を減らす。	b	①福祉体験では今年度からポッチャを取り入れ、スキー教室でのレクでも実施した。学校ファームは支援級の生徒で畑を復活させ、ジャガイモの収穫をおこなうことができた。 ②不登校生徒は1年生で新規4名となったが、2、3年生は0だった。相談室やブースを活用し生徒（家庭）の様々なニーズに対応すると共に、教職員が生徒の悩みに寄り添った結果であると思う。継続の生徒も相談室への登校や外部機関への登校など個々で前進が見られた。 ③学校行事での学年間交流は学期に一回おこなうことができた。今年度はホワイトボードを活用して他学年の声を記入し、交流する場を設けた。 ④地域交流は昨年度同様に実施することができた。新たに杉戸農業高校との交流ができ、非常に実りあるものとなっている。	①ジャガイモは支援級の生徒が収穫できたが、全校生徒で収穫する予定だった大根ができず、春先から準備を進めていきたい。 ②来年度からAルーム（学習支援ルーム）を新設することで相談室との使い分け、生徒の活用の仕方など生徒の実態を考え検討していく。 ③ホワイトボードの活用は、書かれる内容で一度指導をおこなったが非常に良い影響を与えるものになった。来年度は生徒が管理する期間を設けていきたい。 ④杉戸農業高校との交流を通じて畜産、食に関する学習の良い機会となった。3学期におこなった子豚見学ツアーは3年生のみ（約30名）となったが、来年度は1、2年生も含めて多くの生徒が参加できるように企画していきたい。	A	○新規不登校生徒を減らせたことは教職員が生徒に柔軟に対応できる雰囲気が醸成された成果として評価できる。 ○中央廊下のホワイトボードや大型モニターの設置と掲示教育が工夫されている。生徒主体の活用も実践して欲しい。 ○食の大切さを早いうちに経験させることで有難さがわかり、心豊かになると思われる。 ○福祉体験や収穫体験等、全校での取組を始めるとのこと期待しています。 ●栽培体験は生徒のボランティア、地域交流は泉地区の施設や人材の活用も期待できる。 ●他校とのオンライン交流は今後も続けてほしい。他の地域との交流も良いのではないかな。
	交流活動の充実	③学年間交流 ④地域との交流	③学校行事や学年行事、テスト勉強等で学年間での交流の機会を作っていく。（学期1回以上） ④地域ボランティア活動、学区の小学校のPTA活動の依頼を受け、積極的に関わり、広島中学校を地域に発信していく。	a				
健やかな体	健康教育の充実	①学校保健委員会の開催 ②歯磨き習慣の確立 ③保健だよりの発行	①年2回の実施。保護者にも協力員として参加を促す。 ②保健委員を中心に給食後の歯磨き実施9割以上を目指す。 ③保健だよりの電子化によるメール配信。	a	①学校保健委員会を2回実施。保護者の方も参加した。 ②放課後に歯磨きの歌を流して保健委員を中心に歯磨きと呼び掛けた。う歯治療率は85%で良い歯のコンクール努力賞を受賞した。 ③電子化によるメール配信に移行した。 ④「体育の授業が楽しい」と回答した生徒は96%。昼休みは体育館を学年別に開放した。日頃教室で遊んでいる生徒も体育館開放の日は身体を動かす姿が見られ、来年度も継続していく。 ⑤予定表は毎月管理職に提出し、月末に活動日数をチェックした。全ての部活でガイドラインに沿った活動を年間を通して行えた。	②未治療者は11人、治療中が7人である。養護教諭が掲示物を作成し、担任を通じて家庭に呼びかけをおこなってきた。来年度も引き続き、未治療者を減らすよう働きかけていく。 ④持久走やダンスなど単元によって見学者が多いのが課題である。個の課題を設定しているが、苦生意識や辛いことを避ける傾向が拭えず、来年度も個別の課題を設定して取り組ませたい。 ⑤活動時間が短いため、放課後の活動場所への移動や活動内容の見直しなど教職員間で生徒に呼び掛けていく。	B	○体育館の昼休みの開放は生徒にとってよい取り組みになっており、継続が望まれる。 ○部活動の在り方については社会体育への移行を踏まえ、今後も節度ある活動が望まれる。 ○毎年、う歯治療が高く、歯磨きを習慣化することにより予防につながることを理解していると思います。 ○生徒個人で体を動かす活動ができるようサポートを速く愛します。 ●歯科だけでなく、眼科や心のケアにも目を向けてもらいたい。 ●部活動ガイドライン実施は理解できるが、もう少しよって活動させてあげたい。
	体力の向上	④基礎体力の向上 ⑤部活動ガイドラインの完全実施	④体育委員会による運動習慣の呼びかけ。体育の授業におけるスモールステップの課題提示による「体育が好き」な生徒9割以上。 ⑤部活動ガイドライン完全順守。	a				
学校独自	東中との交流	①1年生：スキー教室で交流 ②2年生：校外学習	①今年度は同じ宿舎で実施。 ②今年度から新たな取り組みとして川越方面で班活動を実施。 ①②当日の交流だけでなく、事前に行行委員の交流やteamsによるオンライン交流、給食交流など交流の機会を増やしていく。	a	①②スキー教室、川越交流遠足では事前の顔合わせ集会からスタートし、実行委員会や係別会議など対面・オンラインで交流することができた。互いの自己紹介の掲示物を学年フロアに掲示したり、交流の際に名刺交換をするなど来年度に向けた準備ができた。 ③備品台帳の点検、新校に向けて処分または残す備品の整理をおこなった。3月末にいよいよ東中から備品が送られてくるので教科主任を中心ににもれなくおこなっていく。 ④夏季休業期間中に各分掌で話し合いの場を持ち、新校に向けた年間計画を作成した。	①②いよいよ新校がスタートする。これまで交流を重ねることでやれることはやってきたが、東中校区の生徒はクラス編成の際に十分に配慮する必要がある。 ③年度初めに新しい教職員でもう一度備品台帳を整理し、管理をしていく。 ④これまでの教育課程、指導方針があるため、様々な場面で僅かなズレが生じてくることが予想される。その都度話を合わせ、生徒（家庭）に伝えていくよう心がけていく。	A	○統合に向けた合同行事に工夫が見られ、充実した交流がされたこと評価できる。 ○東中校区の生徒には定期的なメンタルケアの実施が必要と思われる。 ○教育課程・指導方針など様々な場面で僅かなズレが生じると思われます。その際は話を合わせ、生徒や保護者に細かな情報発信をしていくようお願いします。
	新校設立準備	③統合に向けた備品整理 ④新校の教育課程の編成、通学路などの決定	③各教科主任による備品及び備品台帳の整理 ④2校間で会議を開催し、4月の開校に向けた準備をおこなう。	b				